



## ソフトウェア アップデート

- [Intersight 接続型仮想アプライアンス ソフトウェアの更新 \(1 ページ\)](#)
- [Intersight プライベート仮想アプライアンス ソフトウェアの更新 \(5 ページ\)](#)
- [Intersight Assist ソフトウェアの更新 \(8 ページ\)](#)

## Intersight 接続型仮想アプライアンス ソフトウェアの更新

Intersight Connected Virtual Appliance では、更新サービスによって新しいバージョンが使用可能になったときに自動的にソフトウェアを更新するか、実行中のバージョンよりも上位の使用可能なバージョンに手動で更新することができます。

接続型仮想アプライアンスが**自動モード**（デフォルトモード）で更新するように設定されている場合、クラウドからソフトウェアを直接取得して、サービス パッケージ、カーネルを含む OS パッケージ、およびその他のセキュリティ修正を更新します。設定中に行われた選択に基づいて、インストールは猶予期間に従って行われるか、カスタムインストールスケジュールに従って行われます。自動モードでは、新しい更新が 90 日以上利用可能にならない場合は、Intersight 仮想アプライアンスが **intersight** に接続されていることを確認します。



- (注)
- アプライアンス ソフトウェアの更新には**自動モード**を使用することをお勧めします。
  - ソフトウェアのアップグレードはノードレベルではなくクラスターレベルで行われるため、マルチノードアプライアンスでのソフトウェアアップグレードとシングル ノードアプライアンスでのソフトウェアアップグレードに違いはありません。

**手動モード**で更新するようにアプライアンスが設定されている場合、ソフトウェアイメージを保存した場所に応じて、ローカル マシンまたはネットワーク共有サーバーからソフトウェアイメージをアップロードできます。ソフトウェアイメージがアップロードされたら、更新をすぐにインストールするか、またはインストールの日時をスケジュールするかを選択できます。接続型仮想アプライアンスを手動で更新するには、アプライアンスポータルから必要なソフトウェアパッケージをダウンロードする必要があることに注意してください。詳細については、[ソフトウェア パッケージをダウンロードするためのアプライアンス アカウントの作成](#)および[Intersight 仮想アプライアンスのソフトウェアパッケージのダウンロード](#)を参照してください。



(注) アプライアンスアカウントの更新を定期的に確認し、Intersight 仮想アプライアンスソフトウェアの最新バージョンを使用することを強くお勧めします。Intersight 仮想アプライアンスソフトウェアは、新機能と拡張機能を含むように継続的に改善されているためです。また、製品の「N-3」ソフトウェアバージョンのみがサポートされ、「N」がアプライアンスソフトウェアの最新バージョンであることに注意することも重要です。

インストール用に手動でアップロードするソフトウェアのバージョンが、常に実行中のバージョンよりも高いことを確認します。

次の手順を使用して、**接続済み仮想アプライアンス**のソフトウェア更新を設定します。

**開始する前に：** Intersight Connected Virtual Appliance が Intersight に接続されていることを確認します。

**ステップ 1** アカウント管理者ロールを持つユーザーとして Intersight 仮想アプライアンスにログインします。

**ステップ 2** [サーバー セレクタ (Service Selector)] ドロップダウン リストから [システム (System)] を選択し、[設定 (Settings)] > [一般 (GENERAL)] > [ソフトウェア (Software)] に移動します。インストールされているソフトウェアに関する次の詳細が表示されます。

自動設定モードでは、次の詳細が表示されます。

- **稼働中のバージョン：** 現在のソフトウェア バージョン番号
- **更新モード：** 自動
- **[インストールスケジュール (Installation Schedule)]：** 更新がスケジュールされている日時が表示されます。

手動設定モードでは、次の詳細が表示されます。

- **稼働中のバージョン：** 現在のソフトウェア バージョン番号
- **更新モード：** 手動

両方のモードで、**保留中の更新**に関する次の詳細が表示される場合があります。

- **バージョン：** 更新がスケジュールされているソフトウェア バージョンを示します。
- **更新の影響タイプ：** これは、**破壊的**、**破壊的な再起動**、または**なし**の可能性があります。この影響は、インフラストラクチャのアップグレードまたは他のサービスのアップグレードによって中断される可能性があります。中断のない更新によって、**更新の影響期間**に指定された期間に Intersight が使用できなくなる場合があります。アプライアンスの中断的な再起動は、カーネルの更新とサービスの再起動が原因で発生する可能性があります。更新の計画と管理を改善するために、猶予期間が提供されます。中断を伴う再起動がある場合、UI には適切なメッセージが表示されます。

**注目**      アプライアンスの更新が完了するまでに約 90 分かかる場合があります。

この間、一部の機能は一時的に使用できなくなります。

更新をトリガーする前にバックアップを実行し、アプライアンスを再起動しないことをお勧めします。再起動する必要がある場合、Intersight アプライアンスは自動的に動作します。

- **[インストール日時 (Installation Date/Time)]** : 更新がスケジュールされている日時が表示されます。鉛筆アイコンをクリックして、インストール日時を編集できます。
- **リリース ノート** : 保留中のソフトウェア アップデートのリリース ノートへのリンク

**[ソフトウェア (Software)]** ページには、**[更新履歴 (Update History)]** の下にアプライアンス ソフトウェア アップデートのテーブル ビューも表示されます。次の表に、インストールの日付、アプライアンス ソフトウェアのバージョン、ソフトウェア バージョンの説明、および更新のインストールのステータスを示します。このテーブル ビューから、特定のバージョンのソフトウェアと、インストールされた日付、およびインストールのステータスを検索できます。

**ステップ 3**    ソフトウェア アップデートを設定するには、**[設定の更新 (Update Settings)]** をクリックします。

**ステップ 4** **[設定の更新 (Update Settings)]** ページで、自動モードまたは手動モードのいずれかを選択して、設定の更新モードを選択します。

自動モードの場合 :

1. 更新の**自動**モードを選択します。
2. インストール スケジュールに**[システム デフォルト (System Default)]** と **[カスタム (Custom)]** を選択します。**[システム デフォルト (System Default)]** を選択すると、Intersight は猶予期間に従って更新をインストールします。**[カスタム (Custom)]** を選択すると、更新の繰り返しとインストール時間を定義できます。選択したインストール スケジュールに基づいて、更新が利用可能になると、アプライアンスが自動的に更新されます。
3. ブラックアウトの日付を有効にし、更新ブラックアウトの**ブラックアウトの開始日**と**ブラックアウトの終了日**を指定し、**[保存 (Save)]** をクリックします。ブラックアウト期間は、システムによるアプライアンスの自動更新が禁止されています。

**注目**      アプライアンスが過去 90 日間に更新されていない場合、ブラックアウト期間を定義することはできません。ブラックアウト期間は、90 日を超えることはできません。

4. Intersight インテリジェンスを更新する戦略を選択します。詳細については、[Intersight Connected Virtual Appliance の Intersight Intelligence の更新](#)を参照してください。
5. **[保存 (Save)]** をクリックします。

自動モードの場合 :

1. **手動**モードの更新を選択します。

Intersight インテリジェンスを更新する戦略を選択します。詳細については、[Intersight Connected Virtual Appliance の Intersight Intelligence の更新](#)を参照してください。

2. [保存 (Save)] をクリックします。
  3. アプライアンス UI から、[設定 (Settings)] アイコン > [設定 (Settings)] > [一般 (General)] > [ソフトウェア (Software)] に移動し、[インストールの更新 (Install Updates)] をクリックします。  
[ソフトウェアをアップロード (Upload Software)] ページが表示されます。
  4. ソフトウェア イメージの保存場所に応じて、[ローカル マシン (Local Machine)] または [ネットワーク 共有 (Network Share)] を選択します。
    1. [ローカル マシン (Local Machine)] オプションで、ソフトウェアをアップロードする場所を参照し、[次へ (Next)] をクリックします。
    2. [ネットワーク 共有 (Network Share)] オプションの場合は、プロトコルを入力し、ファイルのコピー元であるリモート サーバーの詳細を入力して、[次へ (Next)] をクリックします。
      - [プロトコル (Protocol)] : ファイル転送に使用される通信プロトコル。SCP (Secure Copy Protocol) および SFTP (Secure File Transfer Protocol) がサポートされています。
      - [サーバ IP/ホスト名 (Server IP/Hostname)] : ファイルのコピー元のネットワーク 共有サーバー
      - [ポート (Port)] : 使用する TCP ポート
      - [場所 (Location)] : コピーするファイルが保存されているディレクトリ
      - [ファイル名 (Filename)] : ネットワーク 共有からコピーするファイルの名前
      - [ユーザ名 (Username)] : ネットワーク 共有で認証するためのユーザー名
      - [パスワード (Password)] : ネットワーク 共有で認証するためのパスワード
    3. すぐにインストールするか、または後で日時にインストールをスケジュールするかを選択します。
    4. [適用 (Apply)] をクリックします。
  1. [要求 (Requests)] アイコンをクリックすると、アップロードの進行状況を追跡できます。  
アップロードが完了すると、[ソフトウェア (Software)] ページに**保留中の更新**の詳細が表示されます。[保留中の更新の詳細 (Pending Update Details)] セクションでは、更新をキャンセルしたり、すぐに更新したり、インストール日時を編集したりできます。
- (注) 手動モードでは、保留中の更新をキャンセルした場合、更新を開始できるようにアプライアンスソフトウェアを再度アップロードする必要があります。

(注) 更新が失敗し、更新が回復可能な場合、**更新履歴**にはインストールが**[失敗 (Failed)]**と表示され、既存の**[保留中の更新の詳細 (Pending Update Details)]**はそのまま残ります。アップグレードプロセスを再試行できます。正常に更新できない場合は、Cisco TAC にお問い合わせください。

更新が失敗し、更新が回復不能である場合、**更新履歴**にはインストールが**[失敗 (Failed)]**と表示され、既存の**保留中の更新の詳細**は表示されません。ただし、既存のすべての機能と機能は、以前と同様に動作し続けます。更新に失敗した場合は、Cisco TAC にお問い合わせください。

更新後、同じブラウザを使用してアプライアンスにログインすると、エラーコード `SEC_ERROR_REUSED_ISSUER_AND_SERIAL` が表示されることがあります。この問題を解決するには、アプライアンスへのログインに使用しているのと同じブラウザからサーバーのシステム生成証明書を削除する必要があります。たとえば、システムで生成されたサーバーの証明書を Google Chrome から削除するには、**[設定 (Settings)]** > **[プライバシーとセキュリティ (Privacy and security)]** > **[証明書の管理 (Manage certificate)]** に移動します。削除するシステム生成の証明書を選択し、**[削除 (Remove)]** をクリックして、**[閉じる (Close)]** をクリックします。ブラウザを閉じ、新しいブラウザからアプリケーションにログインします。PFC の詳細については、[証明書](#) を参照してください。

---

## Intersight プライベート仮想アプライアンス ソフトウェアの更新

Intersight プライベート仮想アプライアンスでは、実行中のバージョンよりも新しいバージョンにソフトウェアを手動で更新できます。ソフトウェアイメージを保存した場所に応じて、ローカルマシンまたはネットワーク共有サーバーからソフトウェアイメージをアップロードできます。ソフトウェアイメージがアップロードされたら、更新をすぐにインストールするか、またはインストールの日時をスケジュールするかを選択できます。

プライベート仮想アプライアンスを手動で更新するために必要なソフトウェアパッケージをアプライアンス ポータルからダウンロードできます。詳細については、[ソフトウェア パッケージをダウンロードするためのアプライアンス アカウントの作成](#)および[Intersight 仮想アプライアンスのソフトウェアパッケージのダウンロード](#)を参照してください。



- (注)
- アプライアンス ソフトウェアの更新には**自動**モードを使用することをお勧めします。
  - ソフトウェアのアップグレードはノードレベルではなくクラスタレベルで行われるため、マルチノードアプライアンスでのソフトウェアアップグレードとシングルノードアプライアンスでのソフトウェアアップグレードに違いはありません。
  - ソフトウェアのアップグレードはノードレベルではなくクラスタレベルで行われるため、マルチノードアプライアンスでのソフトウェアアップグレードとシングルノードアプライアンスでのソフトウェアアップグレードに違いはありません。

開始する前に：Intersight プライベート仮想アプライアンスをアップグレードするために必要なソフトウェアパッケージがアプライアンス アカウントからダウンロードされていることを確認します。プライベートアプライアンスアカウントの作成方法の詳細については、[ソフトウェアパッケージをダウンロードするためのアプライアンスアカウントの作成](#)を参照してください。

プライベート仮想アプライアンスのソフトウェアアップデートを設定するには、次の手順を使用します。

**ステップ 1** アカウント管理者ロールを持つユーザーとして Intersight 仮想アプライアンスにログインします。

**ステップ 2** [サーバー セレクタ (Service Selector)] ドロップダウン リストから [システム (System)] を選択し、[設定 (Settings)] > [一般 (GENERAL)] > [ソフトウェア (Software)] に移動します。インストールされているソフトウェアに関する次の詳細が表示されます。

自動設定モードでは、次の詳細が表示されます。

- **稼働中のバージョン**：現在のソフトウェア バージョン番号
- **更新モード**：自動

保留中の更新に関する次の詳細が表示されます。

- **バージョン**：更新がスケジュールされているソフトウェア バージョンを示します。
- **更新の影響タイプ**：これは、**破壊的**、**破壊的な再起動**、または**なし**の可能性があります。この影響は、インフラストラクチャのアップグレードまたは他のサービスのアップグレードによって中断される可能性があります。中断のない更新によって、**更新の影響期間**に指定された期間に Intersight が使用できなくなる場合があります。アプライアンスの中断的な再起動は、カーネルの更新とサービスの再起動が原因で発生する可能性があります。更新の計画と管理を改善するために、猶予期間が提供されます。中断を伴う再起動がある場合、UI には適切なメッセージが表示されます。

**注目**      アプライアンスの更新が完了するまでに約 90 分かかる場合があります。

この間、一部の機能は一時的に使用できなくなります。

更新をトリガーする前にバックアップを実行し、アプライアンスを再起動しないことをお勧めします。再起動する必要がある場合、Intersight アプライアンスは自動的に動作します。

- **[インストール日時 (Installation Date/Time)]** : 更新がスケジュールされている日時が表示されます。鉛筆アイコンをクリックして、インストール日時を編集できます。
- **リリース ノート** : 保留中のソフトウェア アップデートのリリース ノートへのリンク

**[ソフトウェア (Software)]** ページには、**[更新履歴 (Update History)]** の下にアプライアンス ソフトウェア アップデートのテーブル ビューも表示されます。次の表に、インストールの日付、アプライアンス ソフトウェアのバージョン、ソフトウェア バージョンの説明、および更新のインストールのステータスを示します。このテーブルビューから、特定のバージョンのソフトウェアと、インストールされた日付、およびインストールのステータスを検索できます。

**ステップ 3 [更新のインストール (Install Update)]** をクリックします。

[ソフトウェアをアップロード (Upload Software)] ページが表示されます。

**ステップ 4 [設定の更新 (Update Settings)]** ページで、自動モードまたは手動モードのいずれかを選択して、設定の更新モードを選択します。

自動モードの場合 :

1. ソフトウェア イメージの保存場所に応じて、**[ローカル マシン (Local Machine)]** または **[ネットワーク 共有 (Network Share)]** を選択します。
    1. **[ローカル マシン (Local Machine)]** で、ソフトウェア イメージを保存した場所を参照し、**[次へ (Next)]** をクリックします。
    2. **[ネットワーク 共有 (Network Share)]** オプションの場合は、プロトコルを入力し、ファイルのコピー元であるリモートサーバーの詳細を入力します。
      - **[プロトコル (Protocol)]** : ファイル転送に使用される通信プロトコル。SCP (Secure Copy Protocol) および SFTP (Secure File Transfer Protocol) がサポートされています。
      - **[サーバ IP/ホスト名 (Server IP/Hostname)]** : ファイルのコピー元のネットワーク 共有サーバー
      - **[ポート (Port)]** : 使用する TCP ポート
      - **[場所 (Location)]** : コピーするファイルが保存されているディレクトリ
      - **[ファイル名 (Filename)]** : ネットワーク 共有からコピーするファイルの名前
      - **[ユーザ名 (Username)]** : ネットワーク 共有で認証するためのユーザー名
      - **[パスワード (Password)]** : ネットワーク 共有で認証するためのパスワード
    3. すぐにインストールするか、または後で日時にインストールをスケジュールするかを選択します。
    4. **[適用 (Apply)]** をクリックします。
- [要求 (Requests)]** アイコンをクリックすると、アップロードの進行状況を追跡できます。



アップロードが完了すると、[ソフトウェア (Software)] ページに**保留中の更新**の詳細が表示されます。[保留中の更新の詳細 (Pending Update Details)] セクションでは、更新をキャンセルしたり、すぐに更新したり、インストール日時を編集したりできます。

(注) 保留中の更新をキャンセルした場合は、更新を開始できるようにアプライアンスソフトウェアを再度アップロードする必要があります。

(注) 更新が失敗し、更新が回復可能な場合、**更新履歴**にはインストールが**[失敗 (Failed)]**と表示され、既存の**保留中の更新の詳細 (Pending Update Details)**はそのまま残ります。アップグレードプロセスを再試行できます。正常に更新できない場合は、Cisco TAC にお問い合わせください。

更新が失敗し、更新が回復不能である場合、**更新履歴**にはインストールが**[失敗 (Failed)]**と表示され、既存の**保留中の更新の詳細**は表示されません。ただし、既存のすべての機能と機能は、以前と同様に動作し続けます。更新に失敗した場合は、Cisco TAC にお問い合わせください。

更新後、同じブラウザを使用してアプライアンスにログインすると、エラーコード **SEC\_ERROR\_REUSED\_ISSUER\_AND\_SERIAL** が表示されることがあります。この問題を解決するには、アプライアンスへのログインに使用しているのと同じブラウザからサーバーのシステム生成証明書を削除する必要があります。たとえば、システムで生成されたサーバーの証明書を Google Chrome から削除するには、**[設定 (Settings)] > [プライバシーとセキュリティ (Privacy and security)] > [証明書の管理 (Manage certificate)]** に移動します。削除するシステム生成の証明書を選択し、**[削除 (Remove)]** をクリックして、**[閉じる (Close)]** をクリックします。ブラウザを閉じ、新しいブラウザからアプリケーションにログインします。PFC の詳細については、[証明書](#) を参照してください。

## Intersight Assist ソフトウェアの更新

Cisco Intersight Assist ソフトウェアは、アップグレードサービスによって新しいバージョンが使用可能になると、Intersight クラウドから自動的にアップグレードされます。90 日以上使用可能な新しいアップグレードがない場合は、Intersight Assist が Intersight に接続されていることを確認します。Intersight Assist は、クラウドから直接自動的にアップグレードして、サービスパッケージ、カーネルなどのセキュリティ修正を含む OS パッケージを更新できます。アプライアンス UI には、アップグレードの影響やサービスの中断など、アップグレードに関するガイドンスが記載されています。毎週のメンテナンスウィンドウ中に更新が利用可能になったら、更新が自動的に実行されるようにスケジュールできます。

ソフトウェア アップグレード スケジュールを設定するには、次の手順を実行します。

### 始める前に

Cisco Intersight Assist が Intersight に接続されていることを確認します。



**ステップ 1** アカウント管理者ロールを持つユーザーとして Intersight Assist にログインします。

**ステップ 2** [サーバー セレクタ (Service Selector)] ドロップダウン リストから [システム (System)] を選択し、[設定 (Settings)] > [一般 (GENERAL)] > [ソフトウェア (Software)] に移動します。インストールされているソフトウェアに関する次の詳細が表示されます。

[新規バージョン (New Version)] セクション:

- [バージョン (Version)] : 使用可能なソフトウェア バージョン番号。
- アップグレードの影響タイプ : これは、破壊的、破壊的な再起動、またはなしの可能性があります。この影響は、インフラストラクチャのアップグレードまたは他のサービスのアップグレードによって中断される可能性があります。中断のない更新によって、アップグレードの影響期間に指定された期間に Intersight が使用できなくなる場合があります。アプライアンスの中断を伴う再起動は、オペレーティングシステムまたはその他のコンポーネントの変更による更新が原因で発生する可能性があります。アップグレードの計画と管理を改善するために、猶予期間が提供されます。中断を伴う再起動がある場合、UI には適切なメッセージが表示されます。

**注目** Assist のアップグレードが完了するまでに最大で 90 分かかる場合があります。

この間、一部の機能は一時的に使用できなくなります。

アップグレードをトリガーする前にバックアップを実行し、アプライアンスを再起動しないことをお勧めします。アプライアンスのアップグレード中は、アプライアンスを手動で再起動しないでください。再起動する必要がある場合、Intersight Assist は自動的に再起動します。

- [インストールをオンにするようにスケジュール (Install To Install On)] : 新しいバージョンがインストールされる予定の日付と時刻。アップグレードがトリガーされると、経過表示バーに更新のステータスが表示されます。
- [機能 (features)] セクション : 新しいソフトウェア バージョンの一部である機能、拡張、および不具合の修正を一覧表示します。

アップグレードスケジュールの設定に応じて、スケジュールされたインストール時間の自動アップグレードを待機するか、[今すぐインストール (Install Now)] をクリックして新しいバージョンをすぐにインストールします。

(注) 新しいソフトウェアバージョンには、7 日以内にアップグレードする必要があります。アップグレードしない場合、Intersight Assist が自動的にアップグレードサービスを完了します。

現在インストールされているソフトウェアに関する次の詳細が表示されます。

- [バージョン (Version)] : 現在インストールされているアプライアンス ソフトウェアのバージョン。
- [スケジュール (Schedule)] : 次のアップグレード ステータスのいずれかが表示されます。
  - [自動 (automatic)] : 自動更新を選択し、スケジュールが設定されていない場合
  - 特定の更新時間がスケジュールされている場合は、日付と時刻

• **[スケジュール (Schedule)]** フィールドの鉛筆アイコンをクリックして、次の詳細を指定します。

1. 更新戦略を選択して、アプライアンスを更新します。**[自動 (Automatic)]** または **[毎週のメンテナンス (Weekly Maintenance)]** を選択します。**[自動 (Automatic)]** オプションを選択すると、更新が利用可能になったときにアプライアンスが自動的に更新されます。アップグレードサービスがこの間隔内で保留中の更新を検出し、猶予期間が有効期限切れになった場合、アップグレードが自動的にトリガーされます。**[設定 (Settings)]** > **[ソフトウェア (Software)]** からアップグレードの詳細を表示できます。
2. **[Weekly Maintenance Window]** オプションを選択した場合は、次の**週の曜日と時刻**を選択して、アップグレードプロセスを開始します。スケジュールは、設定された曜日のその時刻からその日の終了時点までの間隔です。アップグレードは、スケジュールで選択されている特定の時刻と曜日に基づいてトリガーされます。毎週のメンテナンス オプションは、更新が利用可能な場合にのみアップグレードされます。
3. Intersight インテリジェンスを更新する戦略を選択します。**[Intersight Intelligence をすぐに更新 (Update Intersight Intelligence Immediately)]** オプションはデフォルトで有効になっています。これにより、アプライアンスソフトウェアのアップグレードスケジュールに関係なく、ハードウェア互換性リスト (HCL) などの Intersight インテリジェンスが利用可能になり次第、すぐに更新できます。詳細については、「[Intersight Connected Virtual Appliance の Intersight Intelligence の更新](#)」を参照してください。

• **[更新履歴 (Update History)]** : アプライアンスのソフトウェア更新のテーブルビュー。次の表に、**インストールの日付**、アプライアンスソフトウェアの**バージョン**、ソフトウェアバージョンの**説明**、および更新のインストールの**ステータス**を示します。このテーブルビューから、特定のバージョンのソフトウェアと、インストールされた日付、およびインストールのステータスを検索できます。

(注) アップグレードが失敗し、アップグレードが回復可能な場合、**[今すぐインストール (Install Now)]** ボタンは有効のままです。アップグレードプロセスを再試行できます。正常にアップグレードできない場合は、Cisco TAC にお問い合わせください。

アップグレードが失敗し、アップグレードが回復不可能な場合、**[今すぐインストール (Install Now)]** ボタンは無効になります。ただし、既存のすべての機能と機能は、以前と同様に動作し続けます。アップグレードに失敗した場合は、Cisco TAC にお問い合わせください。

アップグレード後、同じブラウザを使用してアプライアンスにログインすると、エラーコード **SEC\_ERROR\_REUSED\_ISSUER\_AND\_SERIAL** が表示されることがあります。この問題を解決するには、アプライアンスへのログインに使用しているのと同じブラウザからサーバーのシステム生成証明書を削除する必要があります。たとえば、システムで生成されたサーバーの証明書を Google Chrome から削除するには、**[設定 (Settings)]** > **[プライバシーとセキュリティ (Privacy and security)]** > **[証明書の管理 (Manage certificate)]** に移動します。削除するシステム生成の証明書を選択し、**[削除 (Remove)]** をクリックして、**[閉じる (Close)]** をクリックします。ブラウザを閉じ、新しいブラウザからアプリケーションにログインします。PFC の詳細については、[証明書](#) を参照してください。

## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。